HyperFlex Edge アップグレード

概要

このセクションでは、Cisco HyperFlex Edge システムのアップグレードに関連する情報を提供します。

重要

- HyperFlex Edge システムをアップグレードするには、分割アップグレードのみを使用します。コンバインド アップグレードは使用しないでください。
- HyperFlex Edge システムをアップグレードする場合は、HyperFlex データ プラットフォームのみが HX Connect UI からアップグレードすることができます。UCS サーバ ファームウェアのオプションは選択しないでください。代わりに、Host Upgrade Utility（HUU）ツールまたは統合管理コントローラ（IMC）スーパバイザを使用して個別にファームウェアのアップグレードを実行します。
- HX データ プラットフォーム（HXDP）ソフトウェア推奨リリース バージョン：Cisco HyperFlex HX シリーズ システムの Cisco HyperFlex アップグレード ガイドラインを見直します。

vSphere Web クライアントを使用した 2.1 以前のリリースからの HyperFlex Edge のアップグレード

HyperFlex Data Platform の 2.5(1a) より前のバージョンからアップグレードする場合は、次の手順に従います

ステップ 1 Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードするためにブートストラップします。手動ブート ストラップ アップグレード プロセス を参照してください。

重要
- ブートストラップ ファイルをコントローラ VM の `/tmp` ディレクトリに必ずコピーしてください。
- 必ず、vCenter の **[管理（Administration）] > [クライアント プラグイン（Client Plug-Ins）]** ページでプラグインのバージョンを確認してください。

ステップ 2 ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショット スケジュールを無効にします。コマンド `stcli snapshot-schedule --disable` を実行します。

このスクリプトは、コントローラ ノードの 1 つで実行するだけで十分です。

ステップ 3 管理者クレデンシャルを使用して vSphere Web クライアント プラグインにログインします。

ステップ 4 HX Data Platform のみの分割アップグレードを実行します。

ステップ 5 アップグレードが完了したことを確認します。詳細については、HyperFlex Edge のアップグレード後の作業 （6 ページ）を参照してください。

ステップ 6 同じコントローラ VM でスナップショット スケジュールを有効にするには、`stcli snapshot-schedule --enable` コマンドを実行します。

HX Connct を使用した 2.5(1a) 以降のリリースからの HyperFlex Edge のアップグレード

Cisco Intersight によって管理されていない、または HX リリース 4.0(2a) より前の HyperFlex Edge システムをアップグレードする場合は、以下の HX Connect 手順を使用します。

（注） Intersight 経由で展開された HX Edge クラスタは、Hyperflex Connect から機能をアップグレードしません。アップグレードは、Intersight でのみサポートされています。

Cisco Intersight を使用して管理されている HyperFlex Edge システムをアップグレードする場合、または HX リリース 4.0(2a) を実行しているシステムの場合は、ここに記載されている手順を実行します。

アップグレードのガイドライン：

- アップグレードできるのは、Cisco Intersight を介して展開された Cisco HyperFlex Edge クラスタのみです。
- また、アップグレードは、HyperFlex クラスタ プロファイルが属する組織からのみ開始できます。たとえば、クラスタが組織 A と組織 B の間で共有され、クラスタ プロファイルが組織 A に属している場合、アップグレードは組織 A からのみ実行できます。
- アップグレード用に選択されるすべてのクラスタは、HyperFlex Edge クラスタである必要があります。
- クラスタが HyperFlex Data Platform バージョン 4.0(1a) 以降であることを確認します。

詳細については、『Cisco Intersight を使用した Cisco HyperFlex Edge システムのアップグレード』を参照してください。

ステップ 1 ブートストラップを実行して Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。詳細については、「手動ブート ストラップ アップグレード プロセス 」を参照してください。

重要 ブートストラップファイルをコントローラ VM の `/tmp` ディレクトリに必ずコピーしてください。

ステップ 2 HX Connect にログインします。

ステップ 3 ナビゲーション ペインで、**[Upgrade]** を選択します。

ステップ 4 [**Select Upgrade Type**] ページで、[**HX Data Platform**] のみを選択します。[Continue] をクリックします。

ステップ 5 [Enter Credentials] ページで、次のフィールドに値を入力します。

HX Data Platform のアップグレード

UI 要素	基本情報
Drag the HX file here or click to browse	「Download Software - HyperFlex HX Data Platform」から、前の release.tgz を使用した既存のクラスタをアップグレードするための Cisco HyperFlex Data Platform アップグレード バンドルの最新パッケージ ファイルをアップロードします。 サンプル ファイル名の形式: *storfs-packages-3.5.2 a-31601. .tgz.*
現在のバージョン	現在の HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。
Current cluster details	HyperFlex クラスタの詳細 **[HyperFlex version]** および **[Cluster upgrade state]** がリストされます。
Bundle version	アップロードされた HyperFlex Data Platform のバージョンが表示されます。

UI 要素	基本情報
（任意）[Checksum] フィールド	MD5 チェックサムの値は、アップグレード パッケージがダウンロードされた場所と同じ `/tmp` ディレクトリにある別個のテキスト ファイルに保管されています。 このオプション ステップは、アップロードされたアップグレードパッケージ バンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

vCenter クレデンシャル（vCenter Credentials）

UI 要素	基本情報
[User Name] フィールド	vCenter <*admin*> ユーザ名を入力します。
[Admin Password] フィールド	vCenter <*admin*> パスワードを入力します。

ステップ 6 [Upgrade] をクリックします。

ステップ 7 [Upgrade Progress] ページの [Validation Screen] に、実行中の検査の進行状況が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。アップグレードが完了したことを確認します。

Cisco Host Upgrade Utility ツールを使用したサーバ ファームウェアのアップグレード

次の表で、Cisco HX サーバのサーバ ファームウェア アップグレードのワークフローの概要を説明します。

ステップ	説明	参照先
1.	ノードを HX メンテナンス モードにします。 （注） アップグレード中にクラスタをオンラインのままにするには、ノードを一度に 1 つずつアップグレードします。	HX クラスタの vMotion の設定の確認 Cisco HyperFrex のメンテナンス モードの開始
2.	Host Upgrade Utility ツールを使用してサーバ ファームウェアをアップグレードします。	『Cisco Host Upgrade Utility User Guide』の「*Updating the Firmware on Cisco UCS C-Series Servers*」を参照してください。

ステップ	説明	参照先
3.	ノードを再起動して再びESXiにします。HX メンテナンス モードを終了します。	Cisco HyperFrex のメンテナンス モードの終了
4.	ラスタが完全に正常な状態になるまで待機します。	HyperFlex クラスタのヘルスの表示
5.	ローリング方式で、残りのHXノードに対して手順 1 ～ 4 を繰り返します。 （注） クラスタ内の次のホストをメンテナンス モードにする前に、正常な状態かどうかを必ず確認してください。	

https://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/products-user-guide-list.html『に*Cisco Host Upgrade Utility User Guide*』の最新のリリースと過去のリリースがあります。

Cisco IMC Supervisor を使用した Cisco UCS C シリーズ サーバのファームウェアの更新

Cisco IMC バージョン 2.0(x) にアップグレードする場合、デフォルトの Cisco IMC パスワードを変更する必要があります。

（注） Cisco IMC Supervisor をアップグレードする前に、ファームウェア プロファイルがすでに設定されている場合は、Cisco.com クレデンシャルとプロキシの詳細が設定されていることを確認してください。

ステップ 1 **[Systems]** > **[Firmware Management]** を選択します。

ステップ 2 **[Firmware Management (ファームウェア管理)]** ページで、**[Firmware Upgrades (ファームウェア アップグレード)]** をクリックします。

ステップ 3 [Run Upgrade] をクリックします。警告メッセージが表示され、選択したサーバのアップグレードを実行すると、ホストがリブートしてファームウェアのアップデートツールが起動することが通知されます。ファームウェアのアップデートが完了すると、サーバがリブートして元のホスト OS が起動します。

ステップ 4 [OK] をクリックして確定します。

ステップ 5 **[Upgrade Firmware (ファームウェア アップグレード)]** 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Select Profile] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストからプロファイルを選択します。
[Platform] フィールド	[Select] をクリックして、リストからサーバを選択します。選択したプロファイルで設定されているプラットフォームに一致するサーバだけがリストに表示されます。
[Image Version (イメージ バージョン)] フィールド	
[Image Path (イメージ パス)] フィールド	
[Schedule later] チェックボックス	このチェックボックスをオンにして、アップグレードを実行する既存のスケジュールを選択します。[+] アイコンをクリックして新しいスケジュールを作成することもできます。

ステップ 6 [送信（Submit）] をクリックします。

HyperFlex Edge のアップグレード後の作業

アップグレードが完了して HyperFlex Edge クラスタがアップグレードされた後、vCenter からログアウトして再びログインし、アップグレードによる変更を確認します。

ステップ 1 HX ノードが、期待されるファームウェア バージョンに一致することを確認します。

IMC Supervisor GUI でファームウェア バージョンをチェックして、正しいファームウェア バージョンであることを確認します。

ファームウェアバージョンを表示するには、IMC Supervisor GUI で、**[Systems]** > **[Firmware Management]** タブに移動します。詳細については、『Upgrading Firmware using IMC Supervisor』を参照してください。

ステップ 2 SSH を介していずれかのコントローラ VM にログインします。

```
# ssh root@controller_vm_ip
```

ステップ 3 HyperFlex Data Platform バージョンを確認します。

```
# stcli cluster version


Cluster version: 2.5(1c)
Node HX02 version: 2.5(1c)
Node HX01 version: 2.5(1c)
Node HX03 version: 2.5(1c)
```

ステップ 4 HX ストレージ クラスタがオンラインであり、正常な状態であることを確認します。

```
# stcli cluster info|grep -i health
```

```
Sample output:
healthstate : healthy
state: healthy
storage cluster is healthy
```

ステップ 5 データストアが稼働中であり、ESXi ホストに適切にマウントされていることを確認します。

HX コントローラ VM から次のコマンドを実行します。

```
# stcli datastore list
```

ESXi ホストから次のコマンドを実行します。

```
# esxcfg-nas -l
```

ステップ 6 使用するブラウザ インターフェイスごとに、キャッシュを空にしてブラウザ ページをリロードし、HX Connect のコンテンツを更新します。

静的自己署名証明書を動的自己署名証明書に置き換える

説明

Edge クラスタを HyperFlex リリース4.0(2a) にアップグレードすると、コントローラ VM 上の静的な自己署名証明書が動的に生成された自己署名証明書に置き換えられ、アップグレード中に VC の再登録が行われます。ただし、Intersight を使用してクラスタを HX 4.0(2x) にアップグレードした場合、静的な自己署名証明書は置き換えられません。

アクション

静的自己署名証明書を手動で動的自己署名証明書に置き換えるには、次の操作を実行します。

1. クラスタ管理 IP アドレスに SSH 接続します。
2. 次の手順で X-RootSessionID として使用される `/etc/springpath/secure/root_file.pub` から内容をアップロードします。
3. 次のコマンドを実行して、すべてのコントローラ VM に動的証明書を生成してインストールします。

```
curl -v -X PUT -H "Accept: application/json" -H "Content-Type: application/json" -H
"X-RootSessionID: <Contents_from_previous step>" -H "X-LoggedInUser: admin" -H
"X-Scope: READ,MODIFY" -H "X-RequestInitiator: Internal"
http://localhost:8000/securityservice/v1/certificate?option=dynamic
```

（注） 上記の手順は、**secureshell** が有効になっている HX 4.5 以降のクラスタの管理シェルで実行できます。

例

```
root@SpringpathController4AL5TXVEYU:~# curl -v -X PUT -H "Accept: application/json" -H
"Content-Type: application/json" -H "X-RootSessionID: 23cb2f3a806a31f3516e47357b5c6784"
 -H "X-LoggedInUser: admin" -H "X-Scope: READ,MODIFY" -H "X-RequestInitiator: Internal"
 http://localhost:8000/securityservice/v1/certificate?option=dynamic
*   Trying 127.0.0.1...
* Connected to localhost (127.0.0.1) port 8000 (#0)
> PUT /securityservice/v1/certificate?option=dynamic HTTP/1.1
> Host: localhost:8000
> User-Agent: curl/7.47.0
> Accept: application/json
> Content-Type: application/json
> X-RootSessionID: 23cb2f3a806a31f3516e47357b5c6784
> X-LoggedInUser: admin
> X-Scope: READ,MODIFY
> X-RequestInitiator: Internal
>
< HTTP/1.1 200
< Content-Type: application/json
< Content-Length: 56
< Date: Wed, 03 Mar 2021 07:18:57 GMT
<
* Connection #0 to host localhost left intact
{"code":4,"type":"ok","message":"Installed certificate"}
```